

議論の方向性

専門知識・技術を持つ中核人材を確保し、現場職員全体の質の向上を図るため、養成施設への入学者の確保・定着及び福祉業界への就職率向上に向けた取組について意見交換

検討内容

論点①：入学者確保のための取組（中高生向け）

現状・課題

各養成施設がそれぞれ中高生に向けた取組（出前授業、オープンキャンパス、SNSやWebによる情報発信等）を実施しているが、その取組度合いについては施設によって差がある

対応案

既存事業の活用を含め、中高生に向けた養成施設全体の魅力発信に取り組んではどうか

論点②：入学者の確保・定着のための取組（外国人向け）

現状・課題

特に介護福祉士養成施設では、日本語学校との提携や留学生向けに特化した説明会の開催等に取り組んでいる。一方で、入学後の居住等にかかる費用の問題は大きく、多くの留学生はアルバイトをしながら勉強との両立を図っている

対応案

留学生・日本語学校に向けた発信や、居住に関する支援の充実等、外国人入学者の確保・定着に向けて取り組んではどうか

論点③：卒業生に福祉業界に就職してもらうための取組（就職活動等）

現状・課題

- ・ 福祉業界への就職に当たっては実習が与える影響が大きいが、事業所側からは、本来業務に加えて実習生を受け入れることが負担であるとの声もある
- ・ R3年度から社会福祉士養成課程が変更となり、R6年度の4年生からは実習時間時間が増える（180時間⇒240時間）とともに、異なる2か所での実習が必須となっている

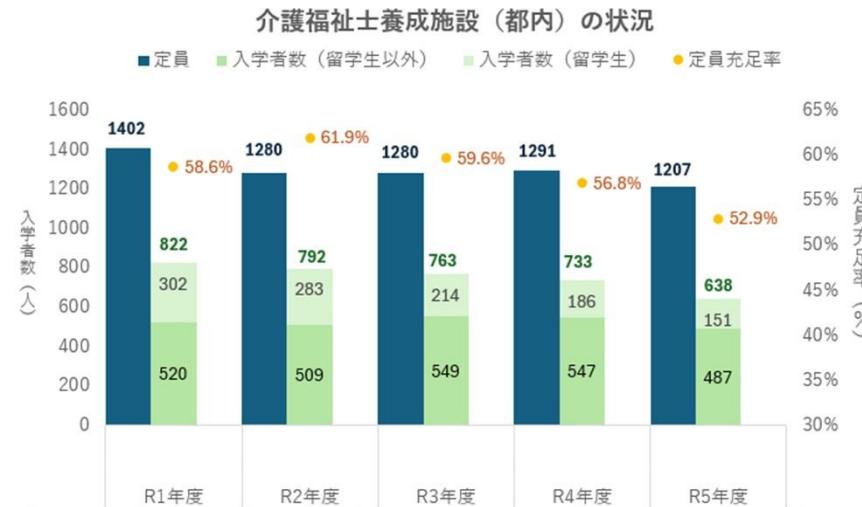
対応案

養成施設・事業所の双方に対して、実習先の確保及び実習の質の向上に向けた支援を行い、実習活動を充実させてはどうか

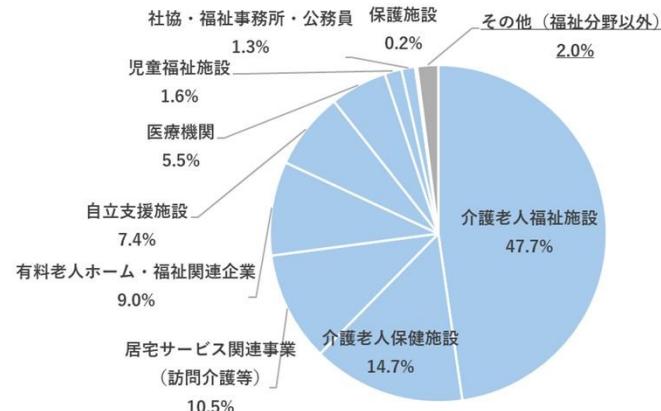
参考データ

【介護福祉士養成施設】

- 都内介護福祉士養成施設の入学者は年々減少。外国人留学生を含めて減少傾向で、定員充足率は50%程度（都調べ）
- 全国の介護福祉士養成施設卒業生の9割以上が福祉分野に就職（介養協調べ）



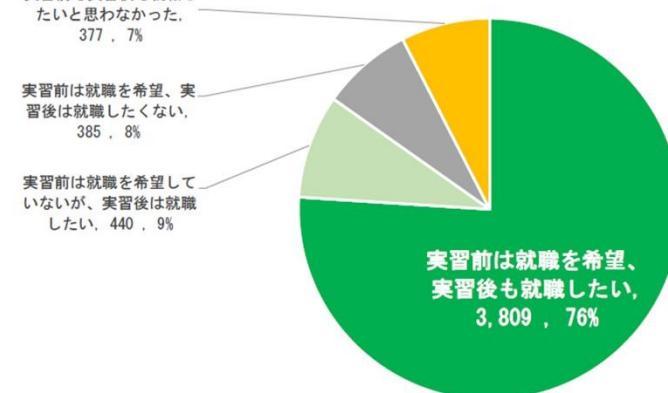
令和6年3月卒業生進路調査 職種別内訳



【ソーシャルワーク系学校（ソーシャルワーク教育学校連盟 会員校）】（※R5推進機構専門部会 ソ協連小森委員報告より）

- 大学・短大のうち、充足率60%未満の課程はR1年（14.0%）からR3年度では16.7%と増加。定員充足率100%未満の課程はR1～R3年の3カ年とも6割前後で推移しており、全私立大学（53.3%）より定員割れの割合が高い
- 大学・短大のうち、R3年3月卒業生の福祉・医療への就職割合が50%未満の課程は44.4%
- 養成施設在校者及び既卒者への調査では、『実習が福祉分野への就職意識にポジティブ』に影響した層が85%

実習前と実習後の就職に関する意識 n=5,011



参考データ

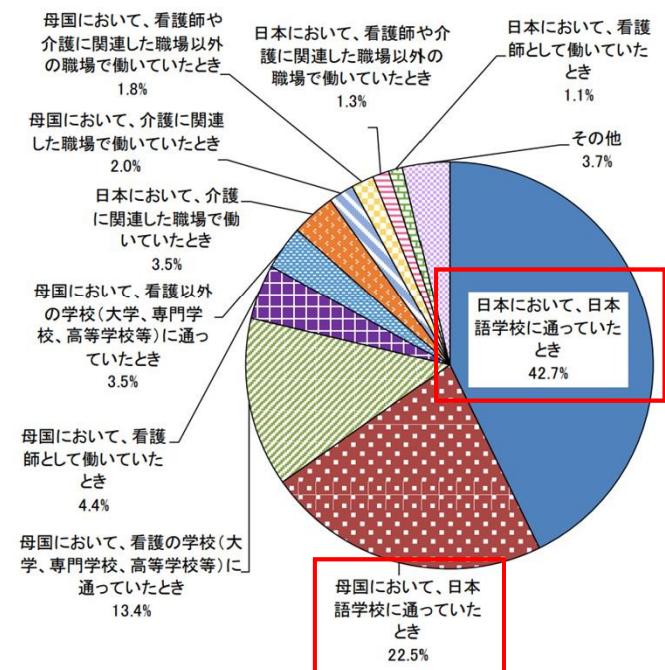
【保育士養成施設】

- 養成施設の定員充足率は、H28には80.9%、H30は77.5%と減少（厚生労働省「保育の現場・職業の魅力向上検討会」資料）
- R2養成施設卒業予定者向けの調査では、保育職に就く予定の学生は85.9%。一般職に就くことに決めた学生のうち40.4%がその理由を「実習で保育をすることに自信を持つことができなかったから」と回答（保養協調べ）

【外国人留学生関連】（H31介養協調べ）

- 介護福祉士養成施設に在学している外国人留学生の6割以上が、日本の養成施設に入学しようと考え始めた時期を「日本あるいは母国で日本語学校に通っていたとき」と回答。養成施設への入学を希望した理由としては「日本で働きたかったから」が46.8%で最も高い
- 外国人留学生の確保のために、日本語学校等の他機関と連携している介護福祉士養成施設は61.0%

問5.あなたが、日本の介護福祉士養成校に入学しようとを考え始めた時期はいつですか。（1つ選択）（n=454）



問6.あなたが、日本の介護福祉士養成校に入学しようと思ったのはなぜですか。（複数選択）（n=449）

